

大人のための美術館ワークショップ

# 掛軸をつくる

にち じ  
日 時 : 平成 25 年 2 月 14 日(木)・21 日(木)・28 日(木)・  
3 月 7 日(木)

さんかになんすう  
参加人数 : 計 14 人

てんじないよう  
展示内容 特別展 自らを見つめる一画家と自画像展

## 1 日目

表装するための作品を制作します。



福田松楽先生による水墨画のご指導です。筆・墨の基本的な使い方や、梅を描くポイントを教えていただきました。



はじめに学芸員から、展覧中の西洋画家による軸装作品の解説を聞きました。



先生の作品

先生のお手本を見ながら、水墨画の梅に挑戦。だんだん梅らしく描けるようになってきました。



# 2日目

2日目からはいよいよ、1日目に描いた作品を使って表装に挑みます。掛軸にするための布と作品は、表具氏の方々が裏打ちをしてくださっていました。

## 講師

根津節二先生      中嶋和秀先生  
根津佳弘先生      松田伸一先生  
川畑健一先生      三上崇先生



自分の作品に合わせて、表具用の布を選びます。ぴったりの組み合わせは見つかりましたか？



各パーツを組み合わせて、一枚の和紙に結合して、裏打ちは完成します。後は2週間程度乾かしておきます。



表装に使う道具



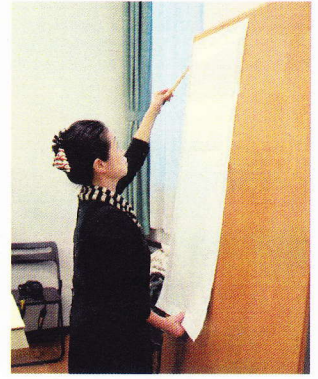
切る・貼るといった基本的な作業ですが、表具の場合は数ミリ単位のズレも許されません。まさに職人の業です。



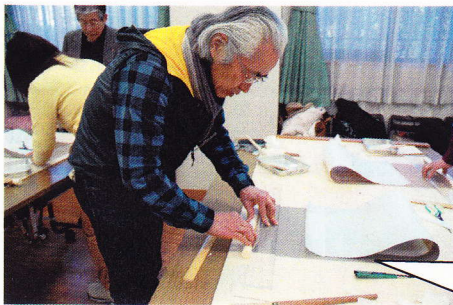


# 3 日目

3日目は表装しておいた和紙に軸木や表木、掛緒など、掛軸を完成させるためのパーツを付けていく作業に取り掛かりました。



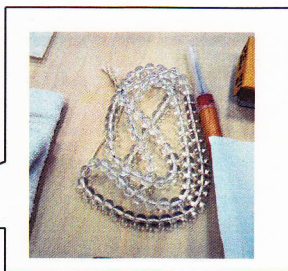
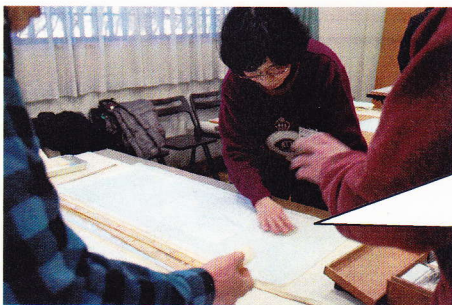
乾かしていた本紙を板からそっとはがします。



軸先に軸木を巻きつけ、ふのりですっかりと固定させます。



下地・上の布をつなぎ合わせます



本紙を巻きやすくするために数珠を使って本紙を均します。



掛緒をつけるための金具をとりつけます。

# 完成

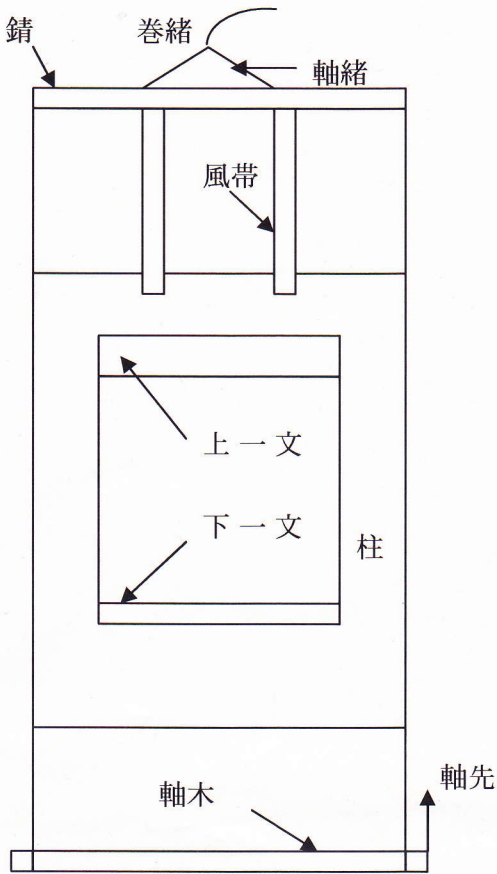


本格的な掛軸が出来上がりました。絵を描くところから掛緒のとりつけまで、自分の手で一本の掛軸を作り上げたことにより、掛軸がいかにかたくさんの行程を経て作られているかがよくわかりました。

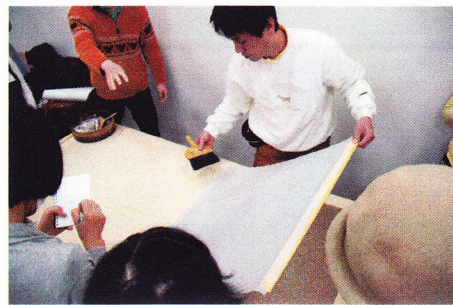


# 4 日目

最終日は、掛軸の種類や仕様について実物を見ながらお話をうかがい、先生方の実演を見学、その後、自分たちで本紙の裏打ち作業を体験しました。



## 掛軸の部分名称



布の裏打ち作業

2枚の和紙をつないで使う場合の裏打ち作業。あまりの細かさに息を詰めて見守ります。



持参してきた作品を裏打ちしました。



掛軸にかかわる工程をすべて体験し、先生方やクラスメイトとともに、楽しく充実した4日間のワークショップを終えました。